

シンポジウム

SIII-3 白血球除去療法にて改善を認めた CREST症候群を合併した原発性 胆汁性肝硬変の一例

兵庫医科大学第四内科 同 第二病理*
おおいしくにお

○大西国夫、澤田康史、中正恵二*、
小坂 正、寺井 洋、清田清史、日笠 豊、
和田正明、谷田憲俊、下山 孝

目的：不完全CREST症候群を合併した原発性
胆汁性肝硬変(以下PBC)に対するleukocytapheresis
(LCAP)の治療効果を検討。

症例：患者は54歳男性。主訴は全身掻痒感、胸部不快感、皮膚硬化、両手関節・肩関節痛。平成5年9月頃より全身掻痒感、両手関節・肩関節痛が出現したが放置。12月頃より胸部不快感も出現。近医の血液生化学検査にて肝機能障害、及び胆道系酵素の異常を指摘され、平成6年2月12日兵庫医大第四内科紹介入院となる。入院時血液生化学検査で肝炎ウィルスマーカーは全て陰性、胆道系酵素とγ-グロブリン分画の上昇、IgG 2510、IgM 633 mg/dlと高値を示し、抗ミトコンドリア抗体(以下AMA)、M2コンポーネント、リウマチ因子(以下RF)、抗核抗体(10240倍)、セントロメア抗体(以下ACA) (5120倍)はいずれも陽性であった。治療前の肝生検でショイヤーステージ分類の二期に相当するPBCと診断。また上部消化管造影検査では中下部食道の拡張と著明な運動機能低下がみられた。手指皮膚の硬化、抗Scl-70抗体陰性、ACA高値である事より、不完全CREST症候群を合併したPBCと診断。今回、本症例に対してLCAPを施行し、その効果を検討した。

結果：治療後、皮膚掻痒、両手関節・肩関節痛等の臨床症状は改善し、血液検査ではIgG、IgM、RF値には著変はなかったが、AMAは10倍と陰性化し、抗核抗体は1280倍、ACAは640倍に低下した。また、肝生検では小葉内壊死、炎症細胞浸潤、胆汁鬱滞が計5回の治療後改善した。

まとめ：今まで、我々はPBCに対する二重膜濾過血漿交換の有効性を報告してきたが、今回LCAPを、不完全CREST症候群を合併したPBCに施行しその効果を検討した結果、ステロイド等の薬剤を用いず、LCAPが、本疾患の症状改善に有効であることが示唆された。

SIII-4 肝不全に対するplasma exchange(PE) + continuous hemodiafiltration(CHDF)の 有用性について

千葉大学医学部 救急部・集中治療部

おおたけしお

○大竹喜雄、平澤博之、菅井桂雄、織田
成人、中西加寿也、松田兼一、北村伸哉、
河邊統一、上野博一、疋田 聡

〔目的〕肝不全に対する治療法としてPEは依然として中心的役割を果たしているが、PEのみでは意識の改善が十分でなく、またPEの際に投与される大量の新鮮凍結血漿(FFP)によって惹起される副作用として高Na血症、代謝性アルカローシス、膠質浸透圧の急激な変化等がある。その対策として当施設ではCHDFの併用、さらにPEを5-6時間かけてできるだけ緩徐に施行するcontinuous PE(CPE)を導入してきた。そこで肝不全におけるPEまたはCPE+CHDF併用法の有用性について検討した。

〔方法〕1985.5-1994.12の間に各種血液浄化法を施行した肝不全症例は113例であり、PEまたはCPE+CHDF併用法を31例(劇症肝炎24例、術後肝不全3例、acute on chronic 2例、その他2例)に施行した。最近の11例にはCPEとCHDFを直列に繋ぎ、CPE終了後はPEの回路のみ取り外し、CHDFはそのまま続行するシステムでCPE+CHDF併用法を施行した。肝不全症例全体については血液浄化法の種類、救命率、腎不全合併率について検討した。劇症肝炎については同時期に施行したPE単独群を対照群としてPE+CHDFまたはCPE+CHDF併用群の間で救命率、意識改善率つき検討し、さらにこれら各種の血液浄化法による膠質浸透圧の推移の理論値を算出し、理論値と実測値を比較検討した。また高Na血症、代謝性アルカローシスに対するCHDFの効果についても検討した。〔結果〕肝不全症例の救命率は25%であり、血液浄化法としてはPEが76例と一番多く施行され、つぎはCHDFの61例であった。腎不全の合併率は65%であった。劇症肝炎に対するPE単独とCHDF併用群において、救命率は差はないが、CHDF併用群ではPE単独によって無効であった肝性昏睡Ⅳ-V度からの意識の改善症例を認め、意識の改善に関してはCHDF併用の効果を認めた。従来の短時間のPEに比べ、CPE+CHDF併用法を行うことにより、低い膠質浸透圧を高めることも、また正常な膠質浸透圧の低下を防ぐことも可能であった。CHDFは高Na血症、代謝性アルカローシスを容易に改善した。〔結語〕大量のFFPを用いてPEを施行する肝不全患者の治療においてCHDFの併用は有用であった。